

低飽和脂肪酸・高オレイン酸及び除草剤グリホサート耐性ダイズ MON87705 系統並びに除草剤グリホサート耐性ダイズ MON89788 系統を掛け合わせた品種に係る食品健康影響評価について

1. 経緯

遺伝子組換えダイズ「低飽和脂肪酸・高オレイン酸及び除草剤グリホサート耐性ダイズ MON87705 系統並びに除草剤グリホサート耐性ダイズ MON89788 系統を掛け合わせた品種」については平成25年4月5日付けで遺伝子組換え食品の安全性審査の申請があったことから、食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項の規定に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

2. 評価依頼品種の概要

本品種は以下の表の遺伝子組換えダイズを伝統的な育種の手法を用いて掛け合わせたものである。

項目	概要	
品 種	低飽和脂肪酸・高オレイン酸及び除草剤グリホサート耐性ダイズ MON87705 系統	除草剤グリホサート耐性ダイズ MON89788 系統
製品の概要	<i>FAD2-1A/FATB1-A</i> 遺伝子断片の導入によってジーンサイレンシングを誘導し、 Δ 12-デサチュラーゼをコードする <i>FAD2-1A</i> 遺伝子及びパルミトイルシルキリアタンパク質チオエステラーゼをコードする <i>FATB1-A</i> 遺伝子の発現を抑制する。その結果、オレイン酸の生成促進及びリノール酸への生合成が抑制されることにより、種子中のオレイン酸の含有量が高まり、同時に飽和脂肪酸であるパルミチン酸及びステアリン酸が減少する。	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子の導入によって改変 CP4 EPSPS タンパク質が発現し、除草剤グリホサート耐性を示す。
宿 主	ダイズ (<i>Glycine max</i> L.)	
挿入遺伝子 (供与体)	<i>FAD2-1A/FATB1-A</i> 遺伝子断片 (ダイズ由来)	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子 (<i>Agrobacterium</i> sp. CP4 株由来)
選抜マーカー (供与体)	改変 <i>cp4 epsps</i> 遺伝子 (<i>Agrobacterium</i> sp. CP4 株由来)	—
新たに獲得された性質	低飽和脂肪酸・高オレイン酸形質 除草剤グリホサート耐性	除草剤グリホサート耐性
安全性審査を経た旨の公表 (官報告示日)	2012年9月25日	2007年11月12日

3. 利用目的及び利用方法

本品種の食品としての利用目的や利用方法は、従来のダイズと相違はない。